

「職場訪問で感じたこと」

進路指導部

平成14年3月10日の卒業式で、385人目の自閉児が卒業していきました。内、196名が企業就労を遂げ、134名が福祉就労を遂げています。以前よりお知らせしているように、我々進路指導部の業務は在校生の進路指導と卒業生の定着指導が主なものとなります。今回は、卒業生の定着指導に焦点を絞って再確認させていただきます。

状況が異なりますので、均一な定着指導がなされている訳ではありませんが、全ての卒業生に対して何時でも定着指導を展開していく体制は整っています。年々卒業生が増加していく中で、我々が定着指導の必要性を知る手段として、従来二つの方法がありました。一つは、職場や家庭からの連絡を待つという受動的なもので、もう一つは行事等で元気な顔を見せてくれた卒業生や保護者の方より、直接知り得る近況を聞き取るという能動的なものです。但し、就労初年度に関しては定期訪問を必ず年2回行いますので、状況把握はかなり正確にできています。

今年度より、この方法に加え進路指導部通信なるものを職場に発信させていただき、我々の業務内容に対する理解を深めていただくと同時に、職場の生の声を収集する、新たなアクションを起こしています。

この背景には、東学園が十数年継続的に行ってきた職場定着指導を、各自治体が設立している就労支援センター等が業務内容に加えているという実体があります。我々には少しでも先を歩み続け、先行する必要があるのです。思いの外反響は大きく、卒業生の現状報告をいただいたり、職場環境の整備等で問い合わせがあったり、学校見学の依頼があったりと、今まで以上に強いパイプを職場と結ぶ手助けになっています。このパイプの強化こそが、卒業後も東学園は半永久的に接点を持ち続けているという証なのです。

張り巡らせたアンテナでキャッチした情報を取捨選択していく時、必要な情報までうっかり捨てない為に、我々は慎重さをモットーとして、常に確認をするよう心掛けています。その繰り返しは、経験値を高め、自信となり、方向性を見極めながら進む時、背中を押してくれます。これは、学校生活を有意義に過ごす上でも同様なことが言えるのではないのでしょうか？

現在、発信先は50カ所位ですが、徐々にその数を増やし、より多くのコミュニケーションをとっていきたいと考えております。お知り合いの方で、進路指導部通信を希望される職場がございましたら、お声をかけて下さい。また、重ねて、実習等でご理解をいただける職場につきましても、是非ご紹介下さい。